

第6学年 国語科学習指導案

6年A組 34名
指導者 中西 達胤

1 単元名 伝えよう！わたしの「海の命」

『海の命』（光村図書 6年）

2 指導にあたって

学習者は、これまでの「読むこと」の学習で、中心となる人物の変化や物語の山場を考える学習を経験している。『帰り道』では、登場人物の行動や会話、情景などの描写から、登場人物の相互関係や心情・視点の違いなどを捉え、中心となる人物の心情の変化とその理由を考えることができた。『やまなし』では、対比を通して『やまなし』の主題に迫ることで、叙述に着目して読み進めたり、主題について考えたりする能力が身に付きつつある。しかし、相手の考えと自分の考えを比較しながら話を聞いているものの、自分の考えを分かりやすく伝え合い、深めるまでには至っていない。そこで、根拠を明確にししながら、課題に対して自分の生き方や考え方と照らし合わせて、相手に伝えることができるようにしたいと考え、本単元を設定した。

本単元で扱う『海の命』は、主人公太一が、父や与吉じいさの死を乗り越え、村一番の漁師に成長する作品であり、海というすべての命の源である大いなる自然の中で逞しく成長する太一の姿を通して、「自然との共生、一人の人間の成長」をテーマとして表したものである。この作品は、起承転結で構成されており、時間経過や人物像が明示されているため、内容がつかみやすい構成となっている。また、本教材は、主人公に関わる人物の言動や情景描写から、それぞれの人物の生き方を想像させる叙述が多く盛り込まれた作品である。海で生きるそれぞれの人物像と相互の関係を捉え、山場である太一の心情の変化とその理由を考えることにより「海の命」とは何を意味するのかを考えさせたい。

本単元における学習者の活動目標は、「登場人物の生き方について考え、自分の考えを書こう」である。第一次では、単元の目標を明確にし、学習計画を立てる。第二次では、それぞれの場面での登場人物の気持ちや、作者が作品に込めた思いを考えながら読み深める。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、学習者の学びを深めるために学習者それぞれが登場人物の生き方に迫り、思考する場面と全体で共有する場면을効果的に設計する。対話的な学びの場をくり返し設定することで、友達の考えとの相違点や共通点を明らかにしながら、自分の思いや考えを明確にしたり、深めたりして、表現することができるようにしたい。第三次では、自分がこれからどのようにして生きていきたいかについて文章にまとめる。毎時間の話し合い活動を通して、書きたいところが変わったり、まとめてきた文章を読み直したりして深く考えることができるようにする。物語を深く読み取り、多様な視点に基づく考え方や自らの生き方に通じる思いを感じ取らせることで、自分の生活と関わらせながら考えることができる力を養いたい。

3 単元の目標

(1) 活動目標 登場人物の生き方について考え、自分の考えを伝え合おう

(2) 指導目標と単元の評価規準

指導目標	評価規準	評価の観点
○語句と語句との関係、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができるようにする。	○語句と語句との関係、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。	知識・技能 (1)オ
○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるようにする。	○「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。	思考・判断・表現 C(1)オ
○文章を読んで理解したことに基づいて、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるようにする。	○「読むこと」において、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。	思考・判断・表現 C(1)エ
○言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度を育てる。	○進んで登場人物の関係等に着目して自分の考えを広げることに取り組み、学習課題に沿って自分の思いや考えを伝え合おうとしている。	主体的に学習に 取り組む態度

4 単元の構想と評価計画

学習活動と学習者の意識 (全10時間)	主な指導・支援	評価規準
<p>事前 立松和平の書いた物語を読み進める。</p> <p>作者は一つ一つの「いのち」を大切にしている気がするな。</p> <p>わたしは、ほかにも違う話を読んでみよう。</p> <p>自分でも読んでみて、いのちの力強さを感じたよ。</p>	<p>○図書館から借りてきた本やインターネットなどで調べた物語をいつでも読むことができるように準備をし、読書への意欲をもつことができるようにする。</p>	
<p>第一次 学習の見通しをもつ。・・・2時間</p> <p>①全文を読み、初発の感想を書く。</p> <p>どうして太一はクエを打たなかったのだろう。</p> <p>「千匹に一匹でいい」とはどういうことだろう。</p> <p>「海の命」とはどういう意味なのかな。</p> <p>②学習計画を立てる。</p> <p>太一の成長がわかるような文章にしたいな。</p> <p>やまなしで作った解説書も参考にしたいな。</p> <p>太一の心の中を想像して書きたいな。</p>	<p>○作品に込めた作者の思いを考えるために、立松和平の作品を読んで、生き方や考え方に触れることができる。</p> <p>○読む視点を示すことによって、テーマを把握できるようにする。</p>	<p>○複数の物語を読んで、共通点や相違点を見出し、命や生き方に対する考えをもっている。(発表)</p> <p>○語句と語句との関係、表現について理解し、語彙を豊かにしている。(発言・ワークシート)</p>
<p>第二次 「海の命」を読む。・・・6時間 (本時6/6)</p> <p>①場面ごとに話の流れをまとめる。</p> <p>この言葉をテーマにして書きたいな。</p> <p>与吉じいさが太一の心情の変化に影響を与えた気がするな。</p> <p>太一はいろいろな人物の影響を受けて成長したんだな。</p> <p>②③叙述を基に登場人物の人物像や生き方を捉える。</p> <p>父も与吉じいさも、海に感謝して生きていると思う。</p> <p>母は海の怖さを知っていたから太一を止めたんだと思う。</p> <p>父は、自慢はしないが大物をとることに執念を燃やしていた。</p> <p>④⑤人物同士の関係や相互の影響を関係図にまとめる。</p> <p>太一は父に憧れや尊敬の気持ちをもっていたと思う。</p> <p>心配している母の姿が浮かんで太一の気持ちに変化があったんだと思う。</p> <p>太一の考え方を変えたものはなんだったのだろう。</p> <p>⑥クエを打たなかった太一の思いや「海の命」という言葉が表すものを考える。</p> <p>どうしてやっと見つけた瀬の主を打たなかったのだろう。</p> <p>私たちは自然の中の命をいただいているんだ。</p> <p>「海の命」は海の生き物と共に生きていくことだと思う。</p>	<p>○物語の大まかな構造を考えさせ、中心人物が誰か、中心人物が何をきっかけにどのように変わったのか大まかな変化を整理できるようにする。</p> <p>○自分の考えと表現を比較して読むことによって、共通点を見出し、自分の考えを確かできるようにする。</p> <p>○人物の言動と表情や人柄を表す表現に目が向くようにし、生き方を考えることができるようにする。</p> <p>○これまでにまとめてきた文章を読み直し、強く考えたことを選ぶことによって、作者の意図に迫ることができるようにする。</p>	<p>○作者が登場人物に込めた意図を考えてまとめている。(発言・ワークシート)</p> <p>○登場人物の相互の関係や心情などについて、情景描写や表現を基に捉えている。(発言・ワークシート)</p> <p>○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(発表・ワークシート)</p> <p>○文章の叙述から読み取れる作者の意図について、自分の考えをまとめている。(発表・ワークシート)</p>
<p>第三次 伝えたいことを明確にして、自分の考えをまとめる。・・・2時間</p> <p>①「海の命」から読み取ったことを文章にまとめる。</p> <p>書き方はわかった。どの登場人物の生き方を基にして書こうかな。</p> <p>私は、海の命を守り、家族を守り続けた太一の生き方について書きたいな。</p> <p>私は、与吉じいさの海を大切にしている生き方に共感したから書きたいな。</p> <p>②それぞれに書いた文章を読み合う。</p> <p>同じ人物で書いているけれど、感じ方が違って面白いな。</p> <p>〇〇さんの意見聞いてもう一度「海の命」を詳しく読みたいと思った。</p> <p>私の意見を聞いてもらってうれしかったことは・・・。</p>	<p>○振り返るための手引きを示し、学習のまとめを書くことができるようにする。</p> <p>○文章の書き出しなどの手引きを作成する。</p> <p>○同じ部分を選んだ学習者や感じ方が異なる学習者に配慮し、発表することができるようにする。</p> <p>○相互評価の場を設けることによって、他者の文章を読んだ感想をまとめることができるようにする。</p>	<p>○他者の文章に書かれている内容に対して、感想や考えをまとめている。(発表)</p> <p>○友達の記事を読み互いに意見や感想を交流しようとしている。(発言・観察)</p>
<p>事後 クラス毎にまとめたものを印刷して、図書室に掲示する。</p>		

立松和平さんの本の並行読書

5 本時の学習

(1) 本時の指導について

学習者はこれまでの学習で、文章の叙述を手がかりに、「与吉じいさの教え」や「父・母・与吉じいさの生き方」についてまとめてきた。本時は、クエを打たなかった太一の変化について考えることにより、作者の意図する「海の命」を考えることができるようにする。学級全体で伝え合う際には、理由や考えを共有し、互いの考えの違いを明らかにしたり、よさを認め合ったりできるようにする。

(2) 目標

① 活動目標

太一が瀬の主を打たなかったわけについて話し合おう。

② 指導目標

友達と意見を伝え合う活動を通して、文章の叙述から読み取れる作者の意図について、自分の考えをまとめることができるようにする。

(3) 展開

学習活動	主な指導・支援	具体の評価規準
1 本時のめあてをつかむ。 太一が瀬の主を打たなかったわけについて話し合おう。	1 これまでの学習を振り返り、本時のめあてをつかむことができるようにする。	
2 太一が瀬の主を打たなかった理由について考えを交流する。	2 太一的心情や見方・考え方の変化を捉え、なぜそのように考えるかを伝え合うことができるようにする。 ○学習者の活動の進み具合を確かめながら、個別に声をかけ支援する。 ○タブレットを用いてこれまでの板書を振り返ることで自分の考えをまとめられるようにする。	
3 「海の命」の題名について考える。	3 登場人物の言動、心情描写や情景描写、象徴される言葉などを手がかりにして一人一人が海の命に込めた作者の思いを捉えられるように助言する。	文章の叙述から読み取れる作者の意図について、自分の考えをまとめている。 (発言・ワークシート)
4 話し合いを通しての自分の考えをまとめる。	4 友達と交流したことも踏まえ、本時のまとめとして、「海の命」にどのような思いや願いを込めたのか、自分なりの考えを書くことができるようにする。	

(4) 本時の評価

「十分満足できる」と判断される状況	太一の心情の変化を捉え、登場人物の生き方や考え方から海の命について自分なりの考えをまとめ、友達と意見を伝え合うことで自分の考えをさらに広げたり深めたりしている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための手立て	板書によって振り返り、どの言葉が太一の行動に影響を与えているかを問い、立松和平さんの思いを考えることができるようにする。